

第6回「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」

実施報告書



後列左より:ADZANIA 様(NLEC ジャカルタ支店)、北原審査委員、秋田審査委員長、Verawati 実行副委員長、菊川実行委員長、高橋様(在インドネシア日本国大使館)、杉山様(全日本空輸株式会社ジャカルタ支店)、和田様(NLEC バンドン支店)、HELEN SUSANTI 様、RINA FITRIANA 様(パクアン大学)
前列左より入賞者5名:STEVEN RAFAELIE LUKITA、FAJAR RAMDHANI、BERLIANA NUGRAHENI、CANDRA RIZKI PERMANA、MERCY RIYANTO

【開催日】 2019年8月24日(土) 予選会 12:00～ 本選会 13:30～

【会場】 PULLMAN JAKARTA INDONESIA

【主催】 一般財団法人 共立国際交流奨学財団

【現地運営団体】 COACH

【後援】 文部科学省
在インドネシア日本国大使館
全日本空輸株式会社ジャカルタ支店

【協賛】 株式会社 共立メンテナンス

<総評>

2014年より始まり、今年で6回目を迎えた「日本語体験コンテスト in ジャカルタ」は、8月24日(土)インドネシアジャカルタ市のPULLMAN JAKARTA INDONESIAにて開催されました。

コンテスト応募者は61名と多くの方に興味を持っていただき、当日は欠席者もありましたが38名が参加されました。

予選会では、日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などの幅広い分野から、聞き取り問題30問が出題され、予選会を通過した16名が本選会に進みました。

今年のスピーチ課題は、①日本では翻訳機が売られています。もしあなたが翻訳機を手に入れたら、日本語を勉強しないで翻訳機を使いますか？それとも使わないで日本語を勉強しますか？その理由を話してください。

②日本政府は「日本人は働きすぎる」という問題から、働き方を変えようとしています。働きやすくするためにはどんな方法があると思いますか？その方法を教えてください。

③日本語を習得するのは難しいと思いますか？それとも簡単だと思いますか？その理由を話してください。

この3つのテーマから1つを選択し、5分間のシンキングタイムの後、3分間の即興スピーチをしていただきました。

本選会出場者は①のテーマを10名、②のテーマを5名、③のテーマを1名の方が選択しました。

スピーチ内容としては、①のテーマでは、機械では人の感情を的確に表現することができないことや、日本語勉強に翻訳機の併用は便利だが、それだけでは日本の文化や日本語独特の表現を学ぶことができないという意見が多かったです。②のテーマでは、「過労死」や「残業」という言葉を知った上で、「日本人は働きすぎだ」といった意見もあり、日本の社会情勢に対する関心の高さがうかがえました。また、「会社は従業員に対して年に1度、強制的に家族や友人と旅行させたり、休暇を取らせる制度を作るべき」や「残業は週1日にするべき」など、外国人ならではの目線に立ったユニークな提案もあり、会場が笑いに包まれました。

そして、審査委員3名による審査の結果、5名が入賞し、実行委員長より賞状と賞品目録を授与されました。

入賞賞品として、2020年1月19日(日)～1月26日(日)(7泊8日機内泊1泊)の日程で、日本体験旅行に参加していただきます。

この日本体験旅行を通じて、日本の良さを身をもって感じていただき、1人でも多くの方に日本への留学を志していただければと思っております。そして、その経験を通じて、将来日本とインドネシア両国の発展に大きく貢献する人材となることを願っております。

<実施報告>

◆予選会

予選会	12:00～	開会の辞・注意事項説明
	12:05～	予選（日本語聞き取り問題30問）

日本の地理、政治、経済、文化、文学、社会、流行などについての聞き取り問題30問



受付の様子



予選会の様子

成績上位者16名が本選会へと出場しました！

◆本選会

本選会	13:30～	予選通過者発表
	13:40～	開会の辞・審査委員紹介・注意事項説明
	13:50～13:55	シンキングタイム
	13:55～	スピーチ



3分間の即興スピーチの後、審査委員からの質問に答えます。

◆表彰式

表彰式	15:30～	「夢・日本体験賞」入賞者発表(5名)
-----	--------	--------------------

<式次第>

- 一、開会の辞
- 一、実行委員長挨拶
- 一、来賓挨拶
- 一、審査委員長講評
- 一、入賞者発表
- 一、奨励賞授与
- 一、閉会の辞

<実行委員長 挨拶>



菊川実行委員長

<来賓 挨拶>



在インドネシア
日本国大使館 高橋様



全日本空輸株式会社
ジャカルタ支店 杉山様

<審査委員長 講評>



秋田審査委員長

<入賞者発表>



菊川実行委員長より
入賞者5名に
賞状と目録が授与されました。

<奨励賞授与>



VERAWATI 実行副委員長
VERAWATI 実行副委員長より
本選会出場者11名に
奨励賞が授与されました。

入賞者5名には、『夢・日本体験賞』(7泊8日の日本体験旅行)を贈呈しました。

『夢・日本体験旅行』受賞者5名が決定！！

2020年1月に日本で会いましょう！



氏名	大学
ファジャル ラムダニ FAJAR RAMDHANI	セマラン国立大学
カンデラ リズキ ベレマナ CANDRA RIZKI PERMANA	パクアン大学
メルシ リヤント MERCY RIYANTO	ダルマプルサダ大学
ベルリアナ ヌグラヘニ BERLIANA NUGRAHENI	バジャジャラン大学
ステベン ラファエリ ルキタ STEVEN RAFAELIE LUKITA	ビナ・ヌサンタラ大学

< 講評 >



審査委員 北原 賢三

(一財) 共立国際交流奨学財団 評議員・奨学金選考委員
教育学博士、神田外語大学客員教授、学校法人共立育英会理事(教育担当)、共立日語学院講師

今回は60名程の応募者があった。予選会を通過した16名の参加者によってコンテストがおこなわれた。今回のスピーチのテーマは、一つは日本語の翻訳機の使用の是非であった。二つ目は、日本人の働き過ぎ改革である。三つ目は、日本語習得の難易の是非であった。外国人に馴染みやすいテーマもあれば、日本によほど関心が無ければスピーチできないようなテーマもある。二番目のテーマである「日本人の働き過ぎ改革」はインドネシア人にとって聞きなれないテーマではないかと思っただ、以外にも5名の参加者が取り上げていた。三番目のテーマの「日本語習得の難易の是非」は、日本語学習者にとって話しやすい内容かと想像したが、一名しかこのテーマを取り上げなかった。残りの10名の参加者が「日本語の翻訳機の使用の是非」を取り上げた。三つのテーマの中では、このテーマが一番、理解しやすく、発想の展開が計れると判断したのかもしれない。一番目のテーマに関するスピーチでは、日本語翻訳機があれば、便利だとは思いますが使いたくない、あるいは使わないと明言していた参加者が全員であった。また、翻訳機では、人間間で行われる自然のコミュニケーションが難しいという意見もあった。つまり、感情も伝わらず、完璧な翻訳は不可能であるということである。例として村上春樹の小説を挙げていて、その翻訳をしたいというものであった。二番目のテーマである「日本人の働き過ぎ改革」では、改革の提案でなるほどと参考になる意見が出ていた。例えば、価値観として、仕事は家族のためにするものであって、一番大切なものは「私」であるという。インドネシア人との労働観の違いが出ていて興味深かった。三番目のテーマである「日本語習得の難易の是非」では、文化の影響が言語に強く出ているので難しく、例として「尊敬語」を挙げていた。全体的にインドネシア人の参加者のスピーチの内容、発音ともにレベルが高いと感じた。